



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127

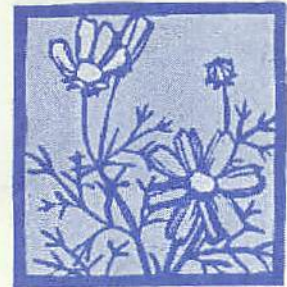
平成 17 年(2005 年)9 月 20 日第 15 号

就労に夢と希望を

平均寿命男性 78.64 年、女性 85.59 年。高年齢者（55 歳～69 歳）の就業率男性 71.5%、女性 45.6%。一方、15 歳から 34 歳の若年層の、求職も通学もしないニートと呼ばれる人口は 64 万人、フリーターは 213 万人。いずれも厚生労働省の 2004 年労働経済白書に記されています。これらの高齢化、ニートやフリーターの増加は今後の日本の大きな社会問題とされています。

こんなことを思いながら、昨年話題になった「13 歳のハローワーク」（村上龍著、幻冬舎）を手にとってみました。帯の言葉にある「好きで好きでしょうがないことを職業として考えてみませんか？」は、職業観が実に明確にまとめられていると感じました。

私たちが今、子どもにかかわる仕事に就いていますが、様々な事情で他の職に就くこともあり得ます。冒頭の平均寿命や高年齢者の就業も視野に入れながら、自分の、また違った好きなことを職業にする夢を描くのも楽しくていいものです。ページをめくりながら、本書は 13 歳に限らず何歳の者にとっても職業選択の参考にできる本であると感じました。その一つを具体的にイメージし準備をすれば、実際にその職業に近づけるような気がしてきます。



教育に携わる者として日ごろから大切にしていることに、人のため、社会のために役に立つ「自己有用感」があります。その自己有用感の具現化の一つに職業があると考えています。目の前の子どもたちを含め私も、何歳になっても、好きなことを職業にすることで、喜びや生きるエネルギーを感じ、自己有用感を高めていけることを願っています。

小・中学校は、職業探しのほんの入り口であり、またその期間は短く、今できる情報提供やプロの職業人との出会いの場等で子どもの知的好奇心を刺激し、職業意識を育てていきたいものです。また、個々の将来設計に合わせたサポートをすることで、将来はどの子どもも自立できる、または自立に近づける教育を今のうちから実践できればと願っています。

内閣府もニートやフリーターの増加を見据え、若年労働者に対し情報発信・意見交換の場を提供することを目的としたウェブサイトを 9 月 1 日に開設しました（サイト名「ニュートラ」）。また、今月は障害者雇用促進月間でもあり、すべての人の就労に夢と希望のもてる社会であってほしいと思っています。（酒井）

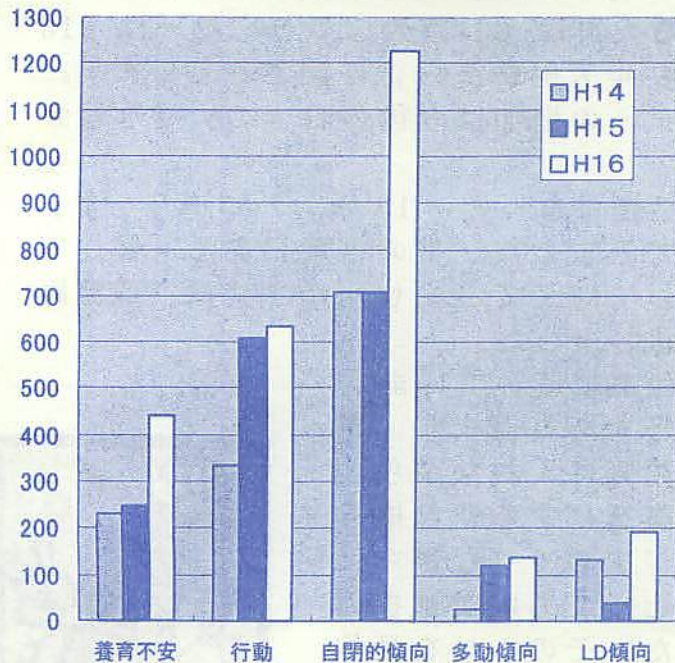
教育相談係

《最近の相談の傾向と保護者対応について》

教育相談係では、おもに3才半から中学生までの子どもに関する一対一での相談、カウンセリング・プレイセラピー等を行っています。相談件数は年々増加傾向にあり、近年、千件単位で増え続けています（昨年度はのべ8087件）。

そこで、特に増加傾向にある相談のみを下記のグラフにしました。保護者に関しては、養育不安の相談が、子どもに関しては、発達面の相談が増えてきています。

主な相談内容の傾向(のべ件数)



発達面では、軽度発達障害の子どもがおられる保護者からの相談が多くなり、学校園の先生方にも勧められ、相談に来られています。しかし、まだ子どもの発達面についての特性を受け入れられない保護者の中には、相談を勧める学校園の対応に不満を抱きながら、来られる方も少なくありません。

保護者と学校との信頼関係

学校園という集団の中と家庭の中とでの子どもの行動には、困り感に多少の違いがあり、教職員と保護者に認識のずれが生じます。何とか保護者に子どもの特性についての理解をしていただき、信頼関係を保ちながら相談機関へつなげていくには…。

声かけするときの心がまえ

〔学校園を中心においた取組み姿勢をしめす。不安な親の思いを受容する。〕

例「ADHD、アスペルガー症候群ではないかと思うのですが・・・。」

(親はレッテルをはられていると感じてしまう。診断名は医療機関にまかせ、むやみに口にしない方がよい。)

例「専門家にみてもらったらどうか？」

(学校園は子どもを見放し、投げ出していると感じてしまう。不信感・孤立感を抱くこともある。まずは関係の確立を。)

- * 子どものことをすごく心配している。
- * こんな手だてをうち、子どもが変わった点、頑張っている点、変わらない点も伝える。
- * 子どものよりよい学校園生活をめざし、学校園が相談機関からアドバイスを得たいと思う。
- * 子どものために学校園のできることはしたいので協力してほしい。家庭ではどうか。(不安な保護者の気持ちを受容し、学校園を中心として協力して取組む姿勢が大切です。)

《教育相談研修について》 1学期と夏季休業中に研修を行いました！

—市民の方も含め、多くの方にご参加いただきました。研修内容と感想の一部をご紹介します。—

「子どもたちの心の声が聞こえますか？—スクールカウンセラーから見た子どもの心の育ちとその理解—」臨床心理士 良原恵子先生

- ・言葉の持つ力・言葉の役割は大きく、言葉が不安をなくす道具の一つとなる。
- ・心の成長のみちすじでは、「自信」（自分を信じる力）、「自尊感情」をもつことがとても大切である。安心感や心の栄養をもらうことで、自分をつくりあげていく。
- ・子どもの大切な4つの経験…①「あなたがいるだけで素晴らしい」と言ってもらえる経験
②「私」が「他人」と関わる経験 ③「失敗に慣れる」「失敗を認められる」「失敗が許される」経験 ④言葉に対する信頼を育てる、言葉を大切に使う経験
- ・毎日の生活でできること…あいつちの言葉をたくさんもつ。言葉と表情は一致させ、2つのメッセージを同時に送らない。(怖い顔で、「～してもいいよ」という等)

「子どもの学習のつまずきを見る視点は？ —子ども理解と視機能からのアプローチ—」 米国オプトメトリスト 北出勝也先生

- ・学習困難であると言われている子どもの内、20%は視機能情報処理（見た形を認識する・イメージする等）に困難があると米国でいわれている。LD、AD/HDと診断された子どもの中には、視機能訓練を行うことで、課題解決へつながることもある。
- ・視力の問題ではなく、視覚情報入力機能に課題があり、「眼が苦しい」と見えないことに苦しみ、それを誰にもわかってもらえずにいる子どもたちが現実にいる。

- * 子どもへの関わりを改めて見つめることができました。「一緒に悩んであげる」ということも心がけていこうと思いました。言葉の大切さも学ばせていただきました。(幼稚園教職員)
- * 安心して聴いてもらえるという子どもの気持ちをつくっていくのは、大人の役割と考え、明日からまたがんばります。(小学校教職員)
- * 今までと違った視点で考えることのできる講習でした。本を読ませると行をとばす生徒がいるので、とても参考になりました。(中学校教職員)

《教育相談総合窓口について》 教育相談関係機関案内冊子を作成中！

教育相談総合窓口では、教育に関する様々な内容（子育てや躰、学校や授業、いじめ・不登校、進路等）についての悩み・問い合わせに対して適切に対応したり、市民のニーズに応じた相談機関へスムーズに案内したり、初期対応の充実をめざして活動しています。

今年度は、豊中市の相談機関や公的な関係機関等へつないでいくための案内冊子を作成しています。課題別にわかりやすくとりまとめていますので、学校園現場でも保護者から教育相談を受けられ、関係機関と連携されたいとき等に是非ご活用ください。年度内、各学校園へ配付予定です。

運動会シーズン到来！

暑い夏も終わり、いよいよ二学期が始まりました。いよいよ運動会シーズンですね。子どもたち、保護者の方はもちろん、先生方にとっても子どもたちの成長を感じられる大切な行事だと思います。今回は、運動会でなぜかトラブルになってしまう子どもたちについて考えてみたいと思います。

自分の組が負けると、他児に対して怒り出してしまいう子

Aさんは運動会に限らず、負けることが嫌いです。そのため、普段の学校生活の中でも自分のチームが負けると友達に対して文句を言ったり叩いたりしてしまいます。いつも先生が仲裁に入りますが、その都度Aさんはこう言います。「負けるなんて許せない！悪いことなんだ！」

かけっこの途中で、コースから外れてしまいう子

Bさんは普段から気の散りやすい傾向にあります。授業中にもふらふらと立ち歩き、列に並んでいることができません。運動会のかけっこの練習でもやはり、走り出したと思ったら立ち止まり、地面をじっと見つめています。そして先生に向かって大きな声でこう言います。「ありの行列がいるよ！」

1番になれないと、ゴールすることをやめてしまいう子

Cさんは普段から、何にでも熱心に取り組みます。運動会の練習でも楽しそうに何度も練習する姿が見られました。しかし、運動会当日のかけっこでは他児が次々にゴールする中、一人だけゴール手前で足を止めて泣き出してしまいました。「えーん！もうダメだあ。」



上記の子どもたちは、三者三様に抱えている問題が違っています。Aさんは『負けること』＝『悪いこと』と思いこんでいるようですし、Bさんは注意散漫で走ることから気がそれがちです。Cさんは一番になれないと叱られると思っていたようです。この場合、AさんやCさんにはその子の思い込みや誤解を解いてあげられるよう、負ける人もいることを事前に説明をしてあげる必要があるでしょうし、Bさんには注意がそれそうになったら声をかけるなど走ること集中できるような工夫が必要かもしれません。

このように子どもたちは私たちが時に驚いてしまうような空想や思い込み、理由によってトラブルを引き起こすことがあります。保護者や先生に頑張っている姿を見せたい！と子どもたちが期待と緊張に胸を膨らませている分、こちらも個に応じて上手にサポートし、見守ってあげることが大切ですね。(岩井)